



伊豆の国市立長岡北小学校だより

菜の花

【令和6年度 学校教育目標】
よりよくなかかわり よさを発揮できる子

令和6年10月21日(月)
学力学習状況調査号

令和6年度 全国学力・学習状況調査について

4月に、全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に、全国学力・学習状況調査が行われました。これは、子どもたちの学力や学習状況を把握し、指導の充実、学習状況の改善等に役立てるためのものです。本年度の本校の調査結果は以下のようになりました。



	よかった点(○)と、課題(●)	今後に向けて
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる。 ○情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。 ○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 ●資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。 	<p>新聞記事やグラフ、表、図など様々な種類の資料に触れ、多様な意見に触れながら思考し、創造性を育む活動を取り入れ、資料を効果的に活用できる力を養います。他者との協働学習を通して、自分の考えを相手に分かりやすく説明したり、相手の興味関心に合わせて発表内容を調整したりするなど、相手の立場に立って考えることで、共感力も育んでいきます。</p> <p>新出漢字の指導では、正しい書き方だけでなく、送り仮名や文中での使い方、語彙との関連性を意識した指導を行います。家庭学習との連携を強化し、学校と家庭で一体となった指導体制を築き、個別の学習状況に合わせて、きめ細やかな指導を行います。</p>
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○数量の関係を、□を用いた式に表すことができる。 ○直方体の見取図について理解し、かくことができる。 ○示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できる。 ●除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解している。 ●除数が小数である場合の除法の計算をすることができる。 	<p>わり算の意味や性質についての理解が浅いため、わり算の場面を日常生活に結び付け、除法の意味を具体的に理解できるようにしていきます。例えば、「15mのリボンを0.3mずつ切ると、何本のリボンができるか」などの問題を通して、除法が何を表すのか、具体をイメージしながら考えることができるようにします。また、他者との協働学習を通して、計算の過程を言葉で説明することで、自分の考えを整理し、より深い理解へと繋がります。</p>

今回の学力調査の結果を受けて明らかになった課題に対し、上記の活動を通して、児童が自分の考えを積極的に表現し、様々な概念を深く理解できるように交流の時間を大切にしたいと思います。また、今回の結果から分かる子どもの姿を教職員で共通に理解し、日々の授業等に生かし、子どもたちの学びを充実させていきたいと思います。



【児童質問紙から】

生活状況・学習意欲などに関して 63 の質問がありました。その中からよいあらわれ（○） 課題となるあらわれ（●）について、お伝えします。



- 人が困っているときは、進んで助けている。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。
- タブレットなどの ICT 機器を活用して、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。
- タブレットなどの ICT 機器を活用して、友達と協力しながら学習を進めることができる。
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。
- 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。
- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。
- 国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いている。
- 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う。
- 自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがある。
- 英語の授業の内容がよく分かる。
- 「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。」という質問に対し、「あまりしていない」と答えている児童の割合が高い。
- 「1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。」という質問に対し、3時間以上4時間未満と答えている児童の割合が高い。
- 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。」という質問に対し、「持っているが、約束はない」と答えている児童の割合が高い。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」という質問に対し、「どちらかといえば、当てはまらない。」「当てはまらない」と答えている児童の割合が高い。

長岡北小学校の子供たちは、困っている人を助けたり、友達と協力して課題を解決したりするなど、社会性や協調性の高い児童が多いことがうかがえます。また、地域や社会への貢献意欲も高く、誰かの役に立つことに喜びを感じながら生活できていることも分かります。自分で学び方を考えたり、学習内容を復習したりするなど学習意欲も高く、特に、タブレットを活用して学習を進めることが得意です。これからの学び方への適応力も期待できます。

一方で、異なる意見を受け入れることに対して、抵抗を感じる児童が多いようです。話し合いや友達との協働学習など、対話を通して、多様な価値観を尊重し、理解を深めることの重要性を伝えていきます。

また、携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、今一度付き合い方を考えたいという結果がありました。今や生活の中に当たり前のようになり、時に必需品でもあるスマートフォンやタブレットですが、興味のあることについての動画が、無限に広がっています。生活習慣が乱れたり、トラブルにつながったりという心配もあります。夏休み前に配付させていただいた「タブレットパソコン10の約束」を基に、ご家庭で今一度、情報機器との付き合い方について話し合ってくださいと思います。

今後も、子供たちにとって、魅力的な教育活動を計画していきます。そして、子供たちのよいあらわれを認めながら、子供たちの強みとしていけるよう支援していきます。今後も地域、保護者の皆様のご理解、ご協力を賜り、知徳体のバランスがとれた子どもの育成を目指していきます。